

2018
第8号

若者がつくる広報ニューしすい

YOUNG EYES

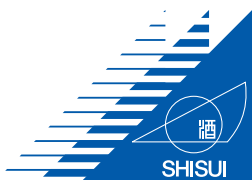


表紙の写真は今回取材を受けていただいた大川華凜さんが、町の国際交流派遣事業で訪れたドイツ・ドルフェン市の近くにある、カンペンヴァンド山の山頂から撮影した写真です。ドルフェン市のように建物などの色合いに統一感があり、とてもすてきな街並みの風景だったそうです。

日本で一番古い町



2019年・酒々井町誕生130年!!



広報ニューしすいYoung Eyes編集委員会

◆発行・編集／酒々井町企画財政課広報広聴班

〒285-8510 千葉県印旛郡酒々井町中央台4-11 ☎043(496)1171

—国際交流受入れ事業—



(前列中央) 大川^{かえで}華楓さん (後列左から) 實川、大川^{かりん}華凜さん、鈴木

町教育委員会では、中学生の国際交流派遣事業を平成24年度より実施しています。オーストラリアやドイツでホームステイをしながら現地の人々とコミュニケーションを図り、国際的な視野を広げています。今年ドイツの生徒を町内のご家庭で受け入れる「国際交流受入れ事業」が実施されました。今回は、大川さんご家族にドイツ・ドルフエン市ギムナジウム校の生徒を受け入れたきっかけや異国の生徒との交流で感じたことなどを編集委員の淑徳大学総合福祉学部社会福祉学科4年の鈴木、實川がお話を伺いました。

鈴木 ドイツからの生徒をホストファミリーとして受け入れをしようと思ったきっかけをお聞かせください。

大川(暁) 町で9月に実施する国際交流派遣事業(ドイツ)に娘が参加の希望をしていたんです。その前に5月下旬、一週間ドイツから生徒が町にホームステイに来るので、その生徒の受け入れをしてみませんかというお話を町からいただきました。初めは受け入れをお断りしようと思っていたのですが、娘から受け入れをしたいと相談され、本人も苦手な英語の勉強を始めたので、家族も協力しようということになって受け入れを決めました。

鈴木 受け入れをするにあたり心配なことはありませんでしたか。

大川(華凜) しっかりとコミュニケーションが取れるか、一緒に楽しく過ごせるのかすごく不安がありました。

鈴木 初めて、受け入れをする生徒と会った時はどうでしたか。

大川(華凜) 受け入れをした生徒はヨハンナという15歳(高校1年)のとてもしっかりとした女の子でした。コミュニケーションは英語でした。お互いにわからない言葉はスマホの翻訳



ドイツから来た生徒のヨハンナさん(中央)

機能を使いながらコミュニケーションを取りましたが、彼女は英語がとても堪能でした。

鈴木 受け入れ期間中に何かハプニング等ありましたか。

大川(暁) 受け入れ初日、ヨハンナのトランクが空港に届かないトラブルがありました。日常生活に必要な物の買い出しをしたり、彼女に娘の服や弟の靴を貸したりしてなんとか対応しました。しかし、このトラブル対応で、彼女と家族の距離が一気に近づいた感じがしました。

鈴木 ヨハンナさんは日本に来た理由や日本で何をしたいと言っていましたか。

大川(華凜) 彼女の家族も日



国際交流受入れ事業の話をお聞かせいただいた大川さん家族（左から大川^{あき}さん、華凜さん、華楓さん）

本が好きで、ヨハンナも日本の文化に興味があったと言っていました。日本では日本の色々な食べ物に挑戦してみたいと言っていました。梅干し、納豆、シメ鯖は苦手なようでしたが、かき氷やサツマイモアイスは珍しいようで食べていました。滞在
中、彼女はあまり生野菜は食べなかったですね。食事の際の飲み水は炭酸水を飲んでいました。
鈴木 受け入れ中、どのように過ごされたのですか。どこかに出かけたたりされましたか。
大川（華凜） 平日、私たちは学校があるので、彼女と一緒に学校で授業を受け、帰宅後は私のバレエ教室でレッスンを見学したり、夕食後は弟や妹と一緒にボードゲームやけん玉、ヨーヨーをして過ごしました。寝る時は私と一緒に部屋で、ガールズトークに花が咲きました。出掛けられる時間があまり無い中で、唯一、皆で佐原と香取神宮に行き、そこでお団子を食べました。彼女は初めて食べたお団子をとてもおいしいと言っていました。
鈴木 ヨハンナさんから色々な質問されたと思いますが、どんなことを聞かれましたか。
大川（華凜） 通学する際の制服について聞かれました。彼女の

学校は私服で通学するそうです。学校の教科書に書いてある内容についても聞かれたり、香取神宮では、鳥居について「これは何ですか」と聞かれました。彼女は日本文化のことや日本語を熱心に覚えようとしていました。「おやすみなさい」の言葉の意味をスマホで調べた際、スマホに「睡眠」と表示されたようで、毎晩、彼女は寝る前に「睡眠」と言っていたと言っていました。（笑）
實川 受け入れをして良かったと感じたことを教えてください。
大川（華凜） ヨハンナが、自分の住む地域の伝統文化について話す時に、とても誇らしげに話す姿を見て、私も自分の地域や日本の文化のことをもっと勉強しようと思ったんです。
大川（暁） 子どもたちは国際交流の良い経験が出来たと感じます。出来る範囲のことしか出来ませんが、わが家に彼女が来てくれて本当にありがたかったです。困ったことがあった時は、他のホストファミリーとも連絡を取り合いましたので、ホストファミリー仲間という新たな繋がりが日本で生まれたことも良かったです。
大川（華楓） ヨハンナと暮らしてとても楽しかったです。

實川 ヨハンナさんとは今も連絡を取り合ってますか。
大川（華凜） ヨハンナが帰国してから、私が9月に町で実施しているドイツ国際交流派遣事業でドイツに行った際、今度は私がヨハンナの家にお世話になり、さらに彼女との友情が深まりました。今でもお互いの近況報告をメールする仲です。
實川 国際交流受入れ事業は、異国の若者同士がお互いを理解するための良いきっかけになっているようです。最後に今後、受け入れを希望するご家庭に対して何かアドバイスはありますか。
大川（華凜） 私はもつと英語の勉強しておけばよかったと思いました。また、ある程度、日本の文化やマナーを伝えられるようにしておくことや相手の文化も知っておくことが大切だと思います。国際交流に興味のあるご家庭は積極的に同事業に参加してほしいと思います。
鈴木・實川 本日はありがとうございました。大川ファミリーにお話を伺いました。
国際交流受入れ事業に関する、申し込み・問い合わせは、酒々井町役場 学校教育課学校教育班 ☎（312）



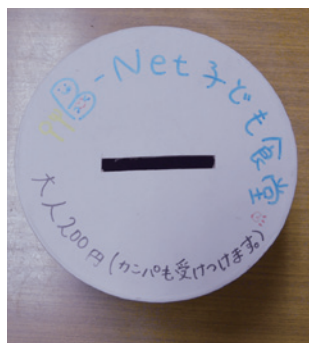
問い合わせ NPO法人 B-Net子どもセンター ☎ (496) 6353

子ども食堂開設 -食事をおして地域交流の場に-

NPO法人 B-Net子どもセンターをご存じの方は多いかと思いますが。2001年3月にNPO法人として認定され、次世代を担う子どもたちや子どもを支える方々に「情報提供」「ふれあい活動」「子育て支援活動」「町づくり活動」などの事業を実施し、地域の子どもの健やかな育成、まちの活性化のために積極的に活動をしている団体です。今年の5月から食事をおして地域の方々の交流の場となる「子ども食堂」を始めたことから、取材をしてきました。



セルフサービスで提供されているおでんやおにぎりなどの料理



料金入れ (前払い)

**開設日は第2・4金曜日
18時から20時まで**

同センターの子ども食堂は普段の活動拠点である酒々井交番脇の建物の一室で、原則毎月第



テーブルを囲んで食事する子どもたち

食卓を囲みながら 皆で食事

取材に伺った日の18時過ぎには、すでに小学生8人が、テーブルを囲みながら和気あいあいの雰囲気の中で、この日提供されていた「おでん、おにぎり、

2・4の金曜日の、18時から20時に開設しており、食事代は18歳までは無料、大人は200円で提供され、提供される食事は、同センターのスタッフが作って提供しているとのことでした。

同センターの葉山さんは「子どもたちには楽しみながら食事をして新たな友だちを作ってもらい、子育てに奮闘中のお母さん・お父さんには情報交換・息抜き場として利用してもらいたい。今後は順天堂大学の学生も活動しているので、食後に子

子どもたち、ママ・パパ などの交流の場に

この子ども食堂をどこで知ったのか保護者の方々に伺うと、同センターが発行している、情報紙「楽しい子どもニュースアツタくん」を子どもたちが学校から持って帰ってくるのを見て知ったとのことでした。

「おでん、おにぎり、カレーうどん、から揚げ、フライドポテト、サラダ」などの料理を各自で自分の食べたい分だけお皿に盛って、皆でおいしそうに食べていました。18時半過ぎになると、赤ちゃんと就学前の男の子をつれた子育て中のお母さんが食事をするため訪れてきました。お話を伺うと、「今日の夕食は、子ども食堂で済ませます」とのこと、その後もぞくぞくと親子で食事をしに多くの方々が訪れ、お母さん方も今日の出来事などを話ながら食事をしていました。



食後、ゲームなどをして遊ぶ子どもたち



幼児連れでも安心して食事ができます

どもたちの宿題などの支援もできればと考えています。また、ご自宅で一人で食事をされている高齢の方々にもぜひ同食堂を利用していただきたい」と話してくれました。